

ウェストコーストトレイル報告書

野元尚巳



ウェストコースト・トレイルとは

ウェストコースト・トレイルはカナダ南西部にあるバンクーバー島の西海岸、パシフィックリム国立公園内に広がる全長 75km に及ぶトレイル。もともとは難破船の乗員乗客が避難するために歩いた道が整備されたもの。トレイルは豊富な水分で大きく育った樹木や様々なコケ類を中心とした森を歩く部分と、太平洋の荒波に洗われる磯や砂浜といった海岸線を歩く部分から構成される。トレイルには無数のボードウォークやハシゴ、泥エリアや吊り橋、手動ケーブルカーなどがあり、ウェットなコンディションの中で、重い荷物を背負ってのトレッキング&キャンプになるため難易度は高いとされている。避難路が無く怪我などで救助を要請しても到着までに 24 時間以上かかると言われているのも難易度に影響していると思われる。

カナダではとても有名なトレッキングコースで、5 月から 9 月まで期間限定でオープンされる。毎年カナダはもとより世界各国から沢山のトレッカーが訪れている

私は加藤則芳氏の書斎でこのトレイルの事を進められた。トレイルの存在は知っていたが具体的なイメージは沸かなかった。漠然と何時かは歩きたいと考えていたが加藤さんと話をしているうちに「これは歩かねば」と思いたった。

メンバー

海外の遠征は一人での行動ばかりが続いていたので、今回はチームで歩きたいなと思い募集した。集まってくれたのは体力や精神面でも問題の無い気心の知れた仲間ばかり。チーム名も Do Luke JAPAN と名付けた。「道楽とラッキーをはじめようぜ日本」と言った軽いのりだ。

向所 隆文

かごしまカヤックスの常連で様々な海と一緒にシーカヤックで漕いでいる。

村松 令子

テレマックススキー仲間。ヒマラヤでの登山経験もある。

人見 美也子

テレマックススキー仲間。ヒマラヤ登山や北鎌尾根の女性のみの登坂など。

野元 尚巳

シーカヤックや自転車、登山で国内外を旅する。



プロローグ

バンクーバー空港で令子さん、美也ちゃん、そして向所さんと合流する。いよいよ4人でロングトレイルの旅が始まる。空港でレンタカーを借りて出発。

予約していたフェリーより早めにバンクーバー島に渡ったほうが良いと判断してフェリーに乗り込む。4年ぶりのBCフェリーは懐かしさと嬉しさがこみ上げてくる。否応無しに気分が盛り上がる。

この旅は事前準備をそれぞれに担当してもらい、皆で作り上げた。特に語学が堪能な美也ちゃんには様々な予約や下調べ。英語の文章の読み込みをしてもらう。令子さんは食料担当。とにかく重量を軽く済ませるためにフリーズドライに頼るのだが、栄養価と飽きないようにメニューを工夫してもらった。また燃費のいいジェットボイルのおかげで4名6日間で230gのガス缶2つで十分だった。向所さんには現地でのスマホによるナビゲーターでお世話になった。なにせ左ハンドルの右側通行なので運転手の私の負担もそれなりだったので助かった。

フェリーを降りてショッピングモールに向かう。ここで現地購入としていたスキムミルクやマッシュポテト、酒類などを買い込む。ワイワイと皆で買出しすることも楽しいなあ・・

宿を探すが段々と人家もまばらになり焦りですが、道沿いにあるモテルを見つけ交渉すると\$120の部屋を紹介してくれた。4人なので安い。

宿にあるパブで出発前の乾杯！ビールが旨い！明日からしばらくは生ものが食べられないので肉、鳥、生野菜などハイカロリー、ハイビタミンな物を食べまくる。

トレッキング1日目 6月2日晴れ

Gordon River ~ Thrasher Cove 6km, 4時間10分

Gordon River までのドライブ中に海が見えた。対岸に見えるのはアメリカ合衆国のオリンピック半島だ。

トレイルヘッドオフィスに到着。そっけない木造の建物だが、それだけにこれからの旅のスタートに相応しい。オープンするまでオフィスの掲示を見たり近くのキャンプ場をうろつく。

駐車場の管理人の案内で4kmほど離れた駐車場に車を止め、駐車料金\$25を払う。そしてトレイルヘッドまで乗せていってもらう。

トレイルヘッドオフィスでオリエンテーションが始まった。レンジャーがスライドを見ながら自然の事、このトレイルの意味合い、食事や排泄について、熊、クーガーなどの野生動物への対処、配慮などを指導する。最後に一人当たり\$168のパーミットを払い終了。これには途中でのフェリー代も含まれる。こんな自然を長い期間楽しめるなんて、とても安いと思う。他にも数組、20名ほどのトレkkerがいる。同じパーチベイを目指す仲間だ。

フェリーのフロートへ続くラダーには「USE AT OWN RISK」と書かれている。やる気が出るぜ！

小さなフェリー（ほぼ漁船）で対岸へ渡り、いよいよフロントカントリーからバックカントリー（荒野）へと入り込む。フェリーから見える風景を見ながら亡くなられた加藤さんの話や、彼の画像を思い出す。彼の意思を受け継いでゆかねば！！



フェリーを降りて、最後の生食であるサンドイッチで早い昼食を済ませる。そして森の中へと入り込む。ここから75km先のパーチベイまでエスケープルートは無い。行くか引き返すかだけだ。

程よく整備されたトレイルを歩き出す。だが道はぬかるんでいた。そしてラダー（梯子）が連続して出てくる。靴底が濡れているので慎重に上り下りを繰り返す。もちろん1つのラダーには一人しか取り付けられない。

ペースが上がらない。最初の75kmのマイルポスト（標識）から次の74kmまで1時間もかかっている。荷物を担いでも時速2kmは出るだろうし、それほどどのぼりが続くわけでもない。狐に包まれたような気持ちになる。

それでも先へと進む。常に水溜り、ラダー、ブリッジが繰り返される。この日の最高地点は150mほどなので全然たいしたことは無い。だが何せペースが上がらない。なかなか次のマイルポストが出てこないのだ。原因はぬかるみと水溜り、ラダーで一人ずつしか動かない。他の3人はその間は待つしかないのでペースが上がらないのだ。これがハイカットブーツならどんどん水溜りを行けるのでペースは上がるだろう。だが我々はミドルカットシューズだし、特に私のシューズは低いので気を使う。

だが早く行くことが目的ではない。怪我をしないように慎重に進む。合言葉は「安全第一、ミドリ安全！」なのだ。

木々の隙間から海がチラチラ見えるが展望は利かない。それとここらは伐採された森なので巨木は少ない。実はカナダやアラスカの森はかなり伐採されている。フィヨルドをクルーズして原生の森と思っても、空から見たら海から見える木を残し、それよりも奥のほうは伐採している箇所も幾つも見てきた。だがそれでもすばらしい自然はたくさんある。

木材の運搬に使われていたドンキーエンジン（薪式蒸気エンジン）の残骸があった。薪を燃やしボイラーを暖めて蒸気を発生。そのパワーでワイヤーを巻き取るのだ。切り出した木材を最後は海に運んだのだろう。そしてそれを筏に組んでタグボートで運搬する。

ここらの海をシーカヤックで旅をしたときにその光景を何度も見かけた。アラスカでは大型ヘリコプターで木材を運ぶところも見だし、カナダの北部ではフロートの上に建つ木材切り出し会社の筏を借りてテントを張った事もある。

ドンキーエンジンはその役目を終えて静かに朽ち果ててゆく。そして自然へと帰ってゆくのだろう。

今日の目的のThrasher Coveの分岐についた。ここからビーチまでは激下り。標高差120mほどを激坂とラダーを使いながら下ってゆく。

テントサイトにはトイレ（落下式で使用后にはおが屑をまく）2基と食料を入れるためのフードボックスが2基あった。巨大な流木の隙間を探してテントを張る。他に数組のトレッカーがいた。

服や靴を乾かしながらくつろぎ、そして夕食。玲子さんが献立してくれたフリーズドライやマッシュポテト（コンビーフやカレーなど、混ぜるもので変化をつけてくれる）はお湯を注ぐだけで出来るのでキャンプガス使用量も少なくて助かる。何よりも味の変化があり飽きない。感謝です。

食後は今回が4回目だと言うカナディアンが焚き火の輪に誘ってくれた。カルガリー、スイス、フランス、そして日本と国籍もそれぞれで楽しい。このトレイルが日本で想像以上に憧れで有名なことに驚かされる。基本的な内容は美也ちゃんが通訳してくれた。

暗くなる前にテントに入り明日からに備える。明日もきっといい日だ！



トレッキング2日目 6月3日 曇りのち晴れ

Thrasher Cove～Cullite Cove 13km, 9時間30分

4:30起床。朝食を済ませザックを担ぐと、昨日の激下りの登りだ。朝一なので体を慣らすようにラダーを登る。息が上がるが特に危険も無いので淡々に行く。

分岐に到着。森歩きを続ける。相変わらずぬかるみと水溜りの連続。そしてラダーとブリッジだ。それに倒木の上を渡る箇所も増えてきた。これが滑りやすく怖い。このトレイルの救助が年間100組ぐらいなものこれも大きな原因ではないかと思う。泥のついた靴で苔むした丸太の上を歩くのはかなり危険だ。滑ると死にはしないだろうが大怪我はありえる。



令子さんが足をぬかるみにとられて転倒。でも手を汚した程度で済んだ。泥に倒れたら悲惨な事になる。他にメンバーにとっては笑いのネタなのだが・・・

倒木を渡っていた時に私が滑って転倒。必死に木にしがみついて泥へのダイブと皆の笑いのネタは防げたが、堪えすぎて腰を少し痛めてしまう。素直にダイブしたほうがよかったのかなあ・・・

ひどくは無いのでそのまま歩き続ける。(翌日からはテーピングをしてカバーした)

Camper Bay への谷筋に降りてゆくとケーブルカーが見えてきた。対岸へワイヤーを渡し、それに2人乗りのゴンドラが下がる人力ケーブルカーだ。これに乗ってみたかった。

まずは美也ちゃんの乗り、2人分のザックを乗せてから私が乗り込む。「行くぜ!」「おへう!!」デッキから手を離すと勢いよくケーブルカーは川の上を進みだす。メチャメチャ面白い。だが中間付近のワイヤーが垂れ下がった地点で停止した。後はワイヤーを手で引きながら進む。これが以外にきつい。最後は腕力のみで対岸のデッキに着いた。



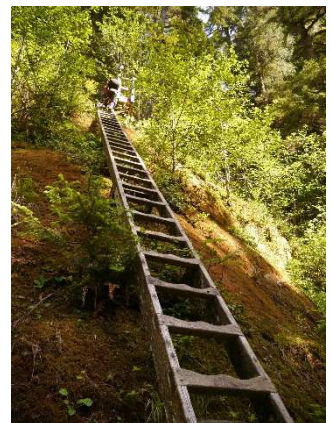
次は向所さんと令子さんが乗り込む。もちろん二人とも大人とは思えない声を張り上げている。あまりに面白いので美也ちゃんと私はもう一回乗り込んで、対岸と1往復した。気分はガキ&お転婆なのだ!

Camper Bay からラダーを数箇所登り森歩き。またもや泥と水溜りの世界だ。空は晴れているのに霧が出ている。暖かなカリフォルニア暖流と冷えた森の影響で海岸線だけ霧が出ているようだ。これまた自然を感じるな。

ラダーを数箇所下りきったところに今日の目的地である Cullite Cove に着いた。気持ちのいいゴロタ岩の海岸で両岸は崖に囲まれている。きれいな川がすぐ横を流れ、テントサイトは土で快適だ。トイレも快適。今回で最高に気に入ったテントサイトだ。

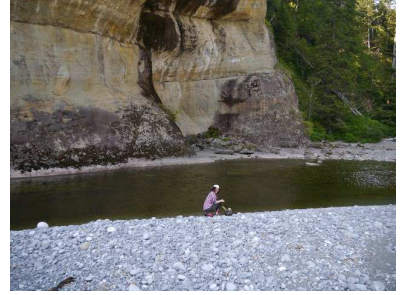
服を干し、足や顔を川で洗いさっぱりとした。皆、少しだけピカピカになったようだ。

飲み水だが、そのまま飲むものに関しては浄水器を使用する。狐をはじめとする動物やさまざまな病原菌がいるかもしれないので直接飲むことはしない。だが浄水器で浄化しても大量の森の栄養分を含んでいるので紅茶色に染まっている。料理用は煮沸するので川の水をそのまま使用する。すべてを煮沸すると燃料が大量に必要なになるので、今回はこのシステムで行った。



しばらくすると女性単独で歩いているポーランド人のイザベラさんがやってきた。彼女は夏はカナダで冬はパタゴニアでガイドをやっているとの事。気さくで美しく逞しい女性だった。我々とは反対方向から来たので情報交換をする。

波の音を聞きながらぐっすりと眠った。



トレッキング3日目 6月4日 晴れ

Cullite Cove〜Cribs Creek (トレッキング), 16km, 10時間20分

4:30起床。寒い。放射冷却が強かったようだ。朝食を済ませパッキング。さあ！今日も元気に行こう！

スタート直後からラダー登り。でも体が早く温まるのでよしとしよう。

すぐに2つ目のケーブルカーが出てきた。もちろんテンションはあがる。2つめなので多様は要領も得てきた。

基本的にこのあたりは氷河が削って出来た谷がほとんどなので崖が急峻だ。(U字谷)なので川を渡ると激登り。まあ、ラダー登りなんだけど、1日あたりの合計上昇は意外に多いかも。

海外のトレイルは整備されていると思っている人も多いようだが、現実はまだ。このトレイルは湿地帯で尾瀬のように木道があるのだが、途中で斜めになっていたり、板が抜けている箇所も少なくない。通れない箇所は何とかするが、多少は我慢しろよ！って感じだ。もちろん私にはOKだけだね。

美也ちゃんが丸太を超えているときに足を滑らせて転倒。そのときに頭をぶつけた。しばらく様子を見るがタンコブが出来たがそれ以外の問題は無いようだ。よかった。レスキュー年間100組の文字が頭をよぎったよ。

またもやラダー&泥&水たまりを進むと大きな谷が見えてきた。急なラダーの下にサスペンションブリッジ(つり橋)が見えてきた。長さは40mぐらいだろうか。またもやテンションが上がるぜ。

ブリッジまでのラダーが傾斜がゆるいのでかえって下りにくい。背負ったザックの重心が頭部にきてしまう。それと周りが岩盤なので滑ると怪我では済まないかもしれない。

サスペンションブリッジは両手を添えるワイヤーと足場は30cmぐらいの幅の板が敷いてある。川からの高さは15~20mぐらいか。バランスを崩さないように歩く。

加藤さんが話していたが、まさに大人のフィールドアスレチックだ。振り返ると霧の向こう側から太陽に光が差し込み、木々のシルエットが映し出されて神々しい。こんなシーを見るたびに来てよかったと思う。

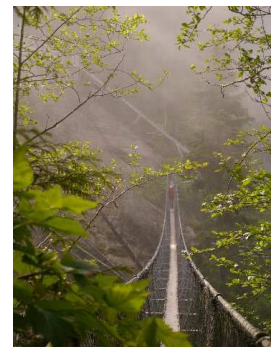
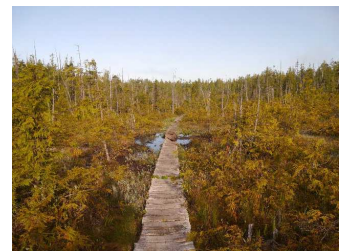
だが渡り終わるとキツイ登りが待っている。そして毎度の泥道を進み3つ目のケーブルカーのあるWalbran Creekに到着。だんだんと川幅が広くなりケーブルカーの長さも長くなる。(その分キツイ)

川を渡るとここからは海岸を歩くことにする。歩き出すとすぐ横をアザラシが泳いでいった。いい事ありそうだ！

海岸はしまった場所は歩きやすいが、それ以外は足が埋まるのでふくらはぎにくる。

どこが歩きやすいか探しながら進む。どうやら潮が引いた後が砂がしまって歩きやすい。ペースが急に上がる。景色も変わり楽しいぞ！

少し行くと青い箱が見えてきた。近づくとも生簀だ。岩手県大船渡港と書かれてある。周りにはフジツボやエボシガイが付着している。声が出なくなる。あの震災から海上を漂いこの海岸に漂着したのだ。他にも日本家屋独特の細工が



してある梁だと思われる木材も打ち上げられていた。白い保冷庫みたいな物も見つけたが、これは部品や書かれている文字などから日本からの漂着物ではないと思う。

大きな木の切り株が逆さまになって砂浜に立っている。この切り株は加藤さんが歩いた2009年の写真でも見た。あれから4年もここままで立っていたんだ。いろいろな思いが沸き起こる。

さらに海岸を進み Carmanah Creek をケーブルカーで渡る。これで4つ目のケーブルカーだ。海岸に出ると話しに聞いていたネイティブがやっているハンバーガー屋が見えてきた。とても人懐こいお婆ちゃんがいた。ものすごく話好きで話が止まらない。ハンバーガーを頼むまでこのお婆ちゃんと15分は話さないと無理なようで、その間にも他の人が来たらオーダーを忘れるときもあるようだ。食べたいが長丁場なので先を急ぐ。



数個のラダーを登りつめたら灯台に着いた。赤と白色に塗られた八角形の Carmanah 灯台だ。メルヘンチックな雰囲気だ。写真を撮影したら燈台守の女性が出てきた。リンダさんだ。日本のことが好きで息子さんも第2外国語として日本語を学んでいるとの事。

灯台からはシーライオン（トド）のコロニーがすぐ近くに見える。時々ライオンのような咆哮が響いてくる。久しぶりのシーライオンとの出会いだ。1匹のオスが80～100頭のメスを従えるハーレムを形成している。もちろんその割合でオスが少なく生まれるわけでは無い。シーカヤックで旅をしていてハーレムを作れない彷徨うオスのシーライオンに何回も遭遇している。思わず「がんばれえ！！」と叫んでしまう。

灯台を後に先に進む。たいがい疲れたころ Cribs Creek へ到着した。この次の区間はどうしても距離を稼がねばならないのでキャンプサイトにはテントが数多く張られていた。

テントを張り、着替えや食事を済ませてお酒を飲む。目の前に広がる太平洋。そして少し左側にはオリンピック半島が青く浮かんでいる。アウトドア誌だったかな？加藤さんがオリンピック半島をトレッキングをした記事を見たことがある。機会を作りあの半島も歩いてみたい。

メンバーは歩く旅が生活になってきたようで、顔つきもトレッカーになってきだした。



トレッキング4日目 曇天〜晴れ (少しぼやけている) 〜晴れ

Cribs Creek〜Tsutiat Falls 17km, 8時間

今日も4:30起床。今日はインディアンリザーブ (ネイティブ居住区) や野生動物の出没地帯を歩くので途中でのキャンプサイトは無い。森とビーチの両方を歩く事になる。

スタートしてしばらくは海岸の岩盤歩き。歩きやすいが、たまにルート間違えると渡れないほどの割れ目になっていて引き返すことになる。

7〜8mほどの崖になりロープが伸びている。行けないことは無いが安全第一で行こうが合言葉なのでラダーを使い森に入ることにした。ここからは海拔15〜20mのほぼ水平で海が見渡せるコースが続く。とても快適だし気持ちがいい。メンバーの笑顔も多くなる。まあ何時でも笑顔なんだが・・・

いくつかのインディアンリザーブを抜けて先へ進む。今までの場所よりも熊の糞を見る回数が増えてきた。熊の固体によっては人間の生活から出るゴミをあさる場合もある。と言うことは人間の匂い=食べ物と思っている熊もいるかもしれない。気をつけよう。

蓮の浮かぶ池を抜けるとフェリー乗り場のある Nitinut Narrows に到着した。ここからフェリーで対岸に渡るのだが、それよりもここで茹でたカニが食べられるのだ。このトレイルで最高のイベントだ！もちろん即注文。実はビールも飲めると聞いていたのだがガセネタだった。なのでコーラとレッドロッククラブ (カニ)。久しぶりのジャンキーな飲み物が嬉しい。もちろん乾杯！ひさしぶりの生の食材に感激。もちろん皆無言になりカニを食べていたら前回のキャンプで一緒だった女性二人組みがサーモンとジャガイモのグリルを食べだした。

「え？なにそれ??」美也ちゃんと令子さんが鋭く反応。実はメニューがありそれも書いてあるようだ。時間的に無理なので注文は出来ないが令子さんはじっと見つめていた。すると女性が「食べない？」と分けてくれた。サーモンよりもジャガイモが美味しかった。やはり生食に飢えているのだ。

フェリーで対岸に送ってもらい、再び歩く旅人となる。木道の下りで向所さんが足を滑らせて転倒。怪我は無いがポールを折ってしまう。まだまだ長丁場だし泥や水溜りが続く。ポール1本ではかなり厳しい。次の休憩ポイントが河原だったので、石とナイフを使いなんとか入れ込んだ。先が曲がっているが使えないことは無い。

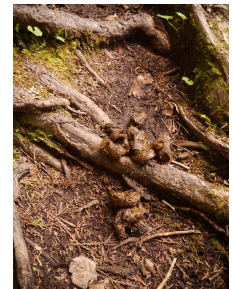
海岸を歩く。アーチ状の岩をくぐりしばらく歩くと今日のキャンプ地の Tsutiat Falls に到着。どこかにいいテントサイトが無いかと探していたらポールの先端部だけが砂に突き刺さっていた。それほど劣化していないしどうやら LEKI 製のようだ。拾い向所さんのポールに挿してみたらピッタリ。なんと神の思し召しか野元様のご加護か！

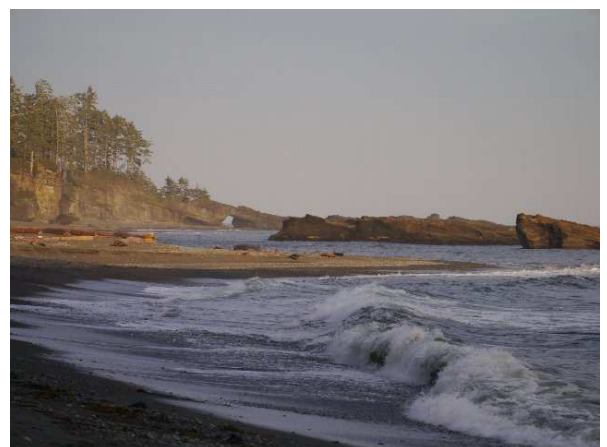
本来のテントサイトは人が作ったようなスクエアな形の滝から流れ出す川を渡った側にある。そこの行くには巨大な倒木の上に行くしかない。落ちると冷たい川なので悲惨だな。他の皆からは期待だなどと思いながら渡る。

とても気持ちのいいテントサイトだ。水は豊富にあるし景観も最高！滝つぼが水場兼水浴場になっていた。超ナイスバディのオネーさんがビキニで水浴びをしている。(真に受けてはいけない。超FAT) 我々も体を拭いてさっぱりする。

夕食後、焚き火を囲み酒を飲む。目の前は太平洋。いいひと時だ。太陽が海霧の影響で七色に見える。プリズム現象だろう。自然がかもし出す妙技に見入ってしまう。

夕暮れに近くを散歩したらクーガー (アメリカライオン。ピューマ) の足跡があった。満潮ラインの下にあったので数時間前に通ったのだろう。やはりウェルダネス=バックカントリー (荒野) なのだ。





トレッキング5日目 ガス〜曇り・晴れ

Tsutiat Falls〜Michigan Creek (トレッキング), 13km, 7時間

今日は楽な行程なので5:30起床。パッキングを済ませ前日渡った丸太を渡るのだが、濡れていて緊張する。海岸からのラダーを登り、しばらく行くと Tsutiat Falls の上部に出た。ブリッジの上からは流れ落ちる様と海が見えた。

ここからは毎度のラダーの登り下りとぬかるみ。だが展望が望める箇所も増えてきて気分が楽になる。またマイルポスの表示も少なくなってきた。マイルポスごとの拳でのタッチ（お互いの拳をぶつけ合う。宇宙兄弟からのパクリ）も恒例になってきた。

展望のいいところでベンチがあった。もちろんザックを置いてくつろぐ。海霧で視界はいまいちだが気分はいい。

5つ目で最後のケーブルカーが出てきた。川幅もさらに広がり長さも長くなる。最後のケーブルカーを楽しむ用に乗る込む。

海岸に戻り私が先行して歩いていた時に、ちょっとお茶目しようといとりで森に入った。すぐ先に海岸に出る場所があるだろうと思って行くが海岸から離れてゆく。これはまずいと思いペースを早めて先に行くがなかなか海岸へ出ることが出来ない。やっと海岸へ出たのだがメンバーが見当たらない。キャンプサイトだったのでフードボックスがある。その中にザックを入れて（熊に襲われないように）来た道を走る。

結局、元の海岸まで走り、そこからメンバーのいる所まで海岸を走った。皆が私が動物とトラブルが遭ったのではと心配していた。御免なさい。

森に入り歩いているとドンキーエンジンがあった。これもかなり朽ち果てている。でもこれを見かけると森にも人間の手が入っているのだなと感じる。

海岸を歩いていたら他にもタグボートと思われる船舶の残骸も見られた。このトレイルの本来の目的が難破した船員の脱出するためのルート確保だ。もちろん今はヘリコプターが救助には活躍するだろう。

Darling River は渡渉（川を歩いて渡る）しかない。靴を濡らすと大変なので裸足になりザックにくくりつける（令子さんはそのための靴を持参していた）。そしてポールで確保しながら冷たい水の中を歩き出す。めちゃめちゃ冷たい。この川は雪解けなので冷たいに決まっている。15mほどで深さも脛ぐらいまでなので問題はないのだが、早く渡らないと足が冷えて感覚がなくなる。

我々が渡ったときは干潮時なのでよかったが雨の後とか満潮時なら厳しいだろうなあ・・・

川を渡ると今日の目的地である Michigan Creek に到着。海岸はゴロタ石が多く、テント適地が少ない。森の中にテントサイトがあるが意外に狭い。その中で3張りのテントがぎりぎり張れる場所を見つけて陣取る。

最後の晚餐だ。焚き火を囲みながら最後の酒を飲み、それぞれの夢や思いを語る。カナダでスキーをやりたいとかジョンミューアトレイルを歩きたいなど話は尽きない。明日でこの旅も終わりかと思うと寂しくなる。でもこのメンバーで歩けてよかったなあ・・・

皆、本当にありがとう。



トレッキング6日目 明け方まで雨～曇天～晴天

Michigan Creek～Pachena Bay (トレッキング), 12km, 4.5 時間

出発地に戻るバスの時間があるので3:30起床とした。だが雨模様で暗い。暗闇を歩くのは熊が出る可能性が高いから止めたほうがいい。出発を遅らせる。

5:30にヘッドライトを点けてスタート。今回、初めてレインウェアを着た。昨日まで5日間も晴れていることが奇跡だ。だが強い雨ではない。

もちろんラダーやぬかるみは続くのだが、だいぶ泥道に慣れてきた。バランスの取りかたや、よけ方などが上手になってきた。泥マイスターの称号をいただきたいぐらいだ。でも本音は泥道は歩きたくない。

どんどんkm表示が少なくなる。そのたびにグータッチにも力がこもる。と言う事は旅の終わりも近くなる。嬉しいような寂しいような複雑な気分だ。

2つ目のライトハウスを見学する。各国への距離表示がある。そこにはJAPAN4695MI (マイル) と書かれていた。遠い所で歩いているのだなあ・・・

道が歩きやすいのでどんどん進み。木々の間から見える海の様子が変化する。どうやらパーチベイに入り込んだようだ。

後は楽勝かと思ったらラダーの連続となる。ここで今回最長のラダーが出てきた。60段、約25mの高さだ。それらを乗り越えて手入れされた芝生地帯に入っと思ったら加藤さんの写真で見た三角屋根のトレイルヘッドオフィスが見えてきた。

あっけないゴールだ。皆でハグをして称えあう。レンジャーにゴールしたことを報告して終了。なにか記念のものはないの?と聞くと、入場証明のレシートがそれだけだよとの事。記念になるものがほしいが、実際歩いたという事実が一番の記念だし、心の中には一生の記念となる。

こうして我々のウェストコーストトレイルは終了した。



エピローグ

バスの時間までかなりある。Bamfield まで 5 km ほど歩けばレストランとシャワーが浴びれるようだ。これは行くしかあるまい。舗装路を歩き出す。道は平坦ではなくウネウネと上下を繰り返す。でも気分は Stand by Me。頭の中であの歌がリフレインされる。

1 時間ほどでレストランに到着。だがレストランは休みだったしシャワーはもっと遠くて時間的に無理だ。ストアがあったのでサンドイッチとコーラを買う。

ビールも売られていたがカナダでは道端など人目につく所で酒類を飲むことは禁止されている。もちろんバスの中でも禁止。購入しても飲む場所がないのだ。涎が出そうになるのを我慢してコーラにしたのだ。

Gordon River までのバスは未舗装路をぶっ飛ばしてゆく。ものすごく揺れるのだが今までの疲れがどっと出て爆睡。途中で数回空を飛んだような気がした。

Gordon River にあるキャンプ場で記念にアップリケを購入し、レンタカーで帰途に着く。

夕暮れの BC フェリーはまたまた素晴らしい景観だ。遠くに雪を頂いた Mt. Baker が赤く染まっていた。実に美しい。いつかは登りたい。

様々な事があったウェストコーストトレイルが終わった。そしてロングトレイルとは何だろう？ 登山との違いは？ などと考える。

加藤さんが話されていた「歩くことが生活なんだ」がよく理解できる。目的は旅を続ける事。これは縦走登山も似ているし、自転車での旅も同じようなものだと思う。2 ヶ月のオーストラリア横断の時も北アルプス縦走、アラスカ～カナダのシーカヤックの時も同じような気持ちで動いていた。

これからもこんな旅を歩き、自転車、シーカヤックなど人力でやり続けたい。

